

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心身ともに元氣な子	うれしい・たのしい・だいすき ～十人十色の輝くらしさ～	自分なりに繰り返し試したり、工夫したりして遊んでいる	可動遊具・虫・砂・水などが自分で興味を持ったことを試しながら自分が楽しいと思えることを探し「もう一回やってみよう」と思ったことで繰り返し遊んでいる。友達遊び方を真似してみる、次は違う方法で試してみるなど自分で考え工夫する姿も見られている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・100パーセントではないかもしれないが、先生方は子ども一人一人に対応されていると思う ・今の先生方はお兄さん、お姉さんのように子どもに言葉を添えてくれていて丁寧だと思う ・年度当初は担任も変わり戸惑いも見られたが、先生たちとの信頼関係が育ってきていることを子ども達を見ていてとても感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのかかわり方が難しい子の姿もあるので、保育者が仲立ちとなり根気よく伝えていく ・基本的な挨拶が身につけていない子が多い。保育者が見本となり日々伝えていく ・自分の思いを表現するのが苦手な子もいるので、保育者が思いを読み取り言葉にするなどの配慮をしていく
		興味を持ったヒト・モノ・コトに自分から関わろうとする	クラスの友達や異年齢児、担任以外の保育者とかかわることが増え親しみを持って接している。保育者が用意した素材や環境に心を動かし積極的に遊ぶ姿が見られている	A	A		
		自分の思いを言葉やしぐさ、表情で表現している	自分の思いや感情を、年齢や発達に応じ、その子の表現できる方法で積極的に表している。子ども一人一人の良さや発想などを保育者が具体的な言葉にして認めている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	どのクラスも、月齢やその子の発達などを含め個人差が大きいので、子ども一人一人に合わせた言葉がけやかかわりを行っている。個々の興味や経験の違いなどにも配慮して環境を工夫している	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の対応が求められるが、担任間で連携してよくみているのがわかる ・子どもは一日の中で園にいる時間が長いので保護者にとっては体調が気になるところ。感染症のお知らせボードを出してくれたりお迎えの時に教えてもらえたりして助かっている ・創意工夫して遊んでいることが良くなる。「良い環境を」と追及すると際限がないと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達一人一人の育ちを職員間で共有し、発達の見通しを持ちながら協力して次の環境を準備していく 子ども達が安心して保育者に助けを求められることができたり、満足するまで夢中で遊ぶことができるような環境や時間、空間の保障を引き続き行っていく 子どもの姿を基に、今、どのような環境が必要か職員間で話し合う時間を確保していく。玩具や素材、道具など子どもが必要なものを選んで提供する環境をつくる 職員一人一人の危機管理意識と判断力を高めるために、訓練方法の見直しやマニュアルの読み合わせを定期的に行っていく (4月、7月、10月、1月) 引き続き健康、安全、食育に関する指導を家庭にも行っていく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	職員間で連携し個々の様子やその日の体調、機嫌などを共有しながら個々に合わせた活動が行えるよう配慮している	A	A		
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが「今、何に興味を持ちどんなことをして遊んでいるのか」を読み取りながら可動遊具や自然物、空き箱、ポンドなどの素材や道具などを用意したり、続きの遊びができるような環境を作ったりしている	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ねらいを明確にした避難訓練・不審者訓練を実施し非常時の判断力を養う。ヒヤリハットした出来事を全職員で共有し、安全対策を確認している	様々な想定を基に各訓練を実施した。突然起こる災害に対応するための訓練となるよう予告なしの実施も行う。また不審者対応の見直しを行った	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・『安全管理』について評価をAにしてしまうと慢心してしまうので、防災や、事故防止は「もっとできるのでは?」と思って取り組んでいただきたい 	
		(1)健康教育の充実	健康に生活する習慣や態度が身に付き、見通しをもって行動できるよう援助している。食育活動を充実させ、食への関心を深めている	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や特性を把握しその子に合った支援計画をたて支援を行うとともに一貫性のある関りを行っている	安心して園生活を送ることができるよう支援計画を作成したり、関係機関と連携を図り情報を共有していった。活動の見直しや内容が理解できるよう写真やイラストを使い可視化し伝えている	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の中のことは外からみてもなかなかかわりにくいことですが、分掌はがんばってやっけても成果が目に見えるもの、見えにくいものがあるのではないかと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者だけでなく、全職員に2カ月に1度情報共有の時間を設けていく
		(1)組織体制の充実	職員一人一人が自分の役割に責任を持ち互いに連携を取りながら教育・保育を行っている	担当する分掌の行事企画案や進捗状況を月の会議で報告し職員間で共有している。一人一人が自身の役割を担いながら協力して教育・保育や行事などを進めている	B		
6 研修	(1)研修体制の充実	重点目標や研修テーマをもとに日々の振り返りや園内研修で意見を出し合い、環境及び援助の方法を共有している	毎週、日誌で研修テーマの振り返りを行っている。公開保育に他園から多数の参加があり園内研修ではグループワークや付箋を利用し積極的な意見交換ができた。10の姿を基に子どもの成長を読み取り、確認しあう研修も行っている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育で外部の方に来てもらい学び合い子どもに返すことができているのではないだろうか。よく追及していると思う (参加できない人にどうやったら同じようなレベルで伝えていけるかが大事) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育、保育の質の向上や環境を見直すために、日々の保育の振り返りを共有する時間を定期的な設ける
		(1)教育・保育環境の充実	子どもが繰り返し考えたり試したりできるように、子供の発達や興味に沿った環境を工夫している	年齢や経験に応じた玩具や素材、道具を用意することで子ども達の興味を引き出され、考えたり試したりしながら遊ぶ子どもの姿が見られている	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びの中で育てている子どもの力や保育者の意図を、可視化しながら保護者に伝え子どもの育ちを共有している	乳児は連絡ノート、幼児は各クラス毎のボードを使い毎日子どもの様子を伝えている。行事のドキュメンテーションを作り掲示。毎月クラスだよりで子どもの育ちや保育者の意図を写真も交えて伝えている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・室内の環境もクラスに応じたカラーで工夫してくれている ・保護者アンケートの結果から園としての対応を検討していくことも大事だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き家庭と、遊びの経過や子どもの育ちを送迎時、ドキュメンテーション、クラスだよりなどを利用し情報共有する。今年度末よりタブレットを導入。アプリを介した保護者とのコミュニケーションを段階的に進めていく予定
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣園・近隣校と情報交換や交流の機会を作っている	辻小学校でのスタートカリキュラムに参加。近隣園の公開保育に参加し、近隣園の職員が自園の公開保育に参加している。飯田中、一中の職業体験や東高生とのふれあい体験を受け入れ交流した。西久保こども園、清水待機児童園との交流を1月から持っている	B		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域との交流を深め、地域のこども園として親しまれる園になっている	未就園児を対象としたおしゃべりサロンを年に9回実施。3組～10組の参加がある。はーとびあで写真展・作品展を行い、辻こども園の教育・保育を発信した。地域の方からアンケートで温かいメッセージが多数寄せられた	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の学校や地域との連携はコロナが落ち着いたばかりなので、これから…発展途上ですね ・地域との連携はいろいろな方向にこれから手を伸ばすことができると思います ・生涯学習交流館の利用や連携も検討すると思う 	<ul style="list-style-type: none"> 辻小学校との交流の機会をコンスタントに持っていく (年3回以上)。引き続き近隣園との交流を行っていく 乳児の子育て世帯にアンケートをお願いしている。結果を基に来年度おしゃべりサロンの計画・実施をする。来年度もはーとびあで写真展・作品展を実施予定。地域の方との交流の機会を、保育者が発信し実現していく